
付属資料 8: 質問票及び回答票

フィリピン共和国「海上保安人材育成プロジェクト」運営指導調査
 専門家及びカウンターパート向け中間評価質問票

本質問票は本プロジェクトの中間評価を念頭において作成しました。今回の運営指導調査は正式な「中間評価」ではなく、「専門家、カウンターパートが PCM 手法を用いてこれまでのプロジェクトの運営状況を確認し、協力開始前に作成した PDM と PO と実際の活動内容とを比較対照することにより、計画内容の再認識と今後の運営方法の明確化と共通認識の形成を行うとともに、必要があればPDM およびPO の修正を検討し、(その過程のなかで PCM 手法に関する技術移転を行う)こと。」を目的としています。

他方 JICA プロジェクト評価のガイドラインでは、中間評価調査の目的は「プロジェクトが計画(すなわち PDM)に従い順調に進捗しているか、プロジェクト目標、上位目標が達成される見通しはどうか、評価 5 項目(妥当性、有効性、効率性、インパクト、自立発展性)の観点から問題はないか、を調査し、その結果に基づき、計画の手直し・軌道修正の必要はあるか、を調査すること」(2001.9 第1版)「協力期間の中間時点で、プロジェクトの実績と実施プロセスを把握し、(当初計画と比較して)、妥当性、効率性などの観点から評価し、必要に応じて当初計画の見直しや運営体制の強化をはかること。」(2004.3 改訂版)とされています。今回調査は正式には中間評価調査ではありませんが上記本調査の目的は末尾かつこ内を除きまさに「中間評価」とダブルのものであります。いわば今回調査は模擬中間評価を行うことによりPCM手法をご理解いただくものともいえます。つきましては、別途 JICA 本部に御願している実績(進捗度)のデータをご用意いただくとともに、評価 5 項目の観点から問題はないかを判断する材料として、専門家・カウンターパートの方に対する質問を以下のとおり用意しました。ご回答の程宜しくお願い致します。

なお、御担当外の事項等で回答が不可能あるいは困難な設問もあるでしょう。また質問の趣旨が不明というケースもあるかもしれません。それらの回答困難な設問に関しては回答を空欄とし、回答可能な項目のみ回答ください。繰り返しますが本調査は中間評価ではなく、中間評価をご理解頂き、必要に応じて計画(PDM, PO)の内容を修正するものであり、「回答不能」、「回答困難」というのも、またご質問・ご意見等も検討資料になりますのでよろしく御願致します。

回答者： _____

- 担当分野： チーフアドバイザー・教育訓練
 海洋環境保全・油防除
 海難救助・航行安全
 法令励行
 業務調整員

A. プロジェクトの前提条件に関して

A1. 前提条件

PDM においては、前提条件が満たされることがプロジェクトを開始するための前提であります。本プロジェクトの前提条件「PCG 職員がプロジェクトを支援する。」は満たされましたか。

- () 十分に満たされている。
 () 十分とはいえないが、まあまあ満たされており、プロジェクト活動への悪影響は小さい。
 () 満たされておらずプロジェクト活動への大きな支障となっている。

説明・コメント：

B. 妥当性（PDMに示された「プロジェクト目標」「上位目標」は評価時においても目標として意味を持つか。フィリピンの国策、受益者のニーズ、日本側方針等）に関して

B1. 上位目標「フィリピン沿岸警備隊の業務遂行能力が向上する」、プロジェクト目標「フィリピン沿岸警備隊の業務実施に必要な知識・技能を有した職員が育成される」はフィリピン社会のニーズに合致しているか。

- 非常に合致している。
- まあまあ合致している。
- どちらともいえない。
- あまりニーズが高いとはいえない。

コメント：

B2. プロジェクト目標「フィリピン沿岸警備隊の業務実施に必要な知識・技能を有した職員が育成される」は、PCGやCGETCのニーズに合致しているか

- PCG, CGETCがわからなくても必要度の極めて高いものである。
- PCG, CGETCにとってはニーズはあるが他により優先度が高い案件がある。
- PCG, CGETCから見れば優先度はあまり高くない。

コメント・説明

B3 本プロジェクトは、フィリピンにおける海難救助、航行安全、海洋環境保全・油防除、法令励行等に従事するPCG職員の人材育成を目指すものです。計画立案時点では、当該分野における人材育成の重要性は高く、協力の妥当性ありとされています。フィリピンの開発政策や社会・経済状況から見て本プロジェクト開始後本プロジェクトの重要性に変化が見られますか。

- より重要になった。
- 重要性に大きな変化はない。(引き続き重要である。)
- 重要性は低下した。

コメント：

B4. 協力開始後、日本政府あるいはJICA本部の方針にプロジェクトの実施に影響を与えるような方針の変更、(たとえば国別援助方針の大幅変更等)がありましたか。

- 大きな変更があった。
- 特になかった。
- 分からない。

理由/コメント：

B5. プロジェクト目標は上位目標達成のために有効ですか。

- プロジェクト目標が達成され、外部条件が満たされれば上位目標は達成されるだろう。
- プロジェクト目標、外部条件は上位目標達成のため重要ではあるが、それだけでは上位目標は達成されず他にも重要な条件が多い。
- プロジェクト目標と上位目標の直接の関連性は薄い。

コメント・説明：

- B6. 本プロジェクトの実施機関として CGETC が選定されていますが、実施機関選定は妥当でしたか
- 実施機関として CGETC 以外には考えられない。
 - 他にも可能性はあるが CGETC であっても不都合はない。
 - 他により適切な機関がある。

コメント・説明

- B7. 日本提供しようとしている技術はフィリピンのニーズに適していますか
- 極めて適している
 - 適していない面がある。

コメント、理由等（フィリピンの求める技術は日本であまり一般的でない、日本の技術はフィリピンの技術レベルに向かないその他）

B8. 他のプロジェクトとの整合性

本プロジェクトはフィリピンが日本あるいは他からの支援により、または独自に実施中あるいは実施済みの他のプロジェクトと補完・波及効果関係あるいは、競合・重複関係にありますか。

- 特にない。
- 補完・波及効果関係あり。

例：

- 競合・重複関係にあり。

例：

C. 有効性に関して

C1. プロジェクト目標達成の見込み。

- 当初予定した協力期間（5年間）終了までに達成できると確信する。
- 5年間で達成できるか微妙である。
- 5年間では達成できないと思われる。

コメント・説明：

C1a. 上記と関連し、別途 JICA 本部には、年度別コースおよびセミナーの実施計画（修了証取得見込み者数を含む）の提出を御願ひしています。ご協力方よろしく御願ひします。

C2. 外部条件は満たされるか

PDM ではアウトプットが達成された上でプロジェクト目標が達成されるための外部条件として 「今後 5 年間の PCG の職員訓練計画に極端な変更がない」 をあげています。

この条件は満たされそうですか

125

- () 既に大きな変更があり、プロジェクトに影響を与えている。
 - () 今のところまだプロジェクトに影響を与えるような変更はないが今後起こる危険が大きい。
 - () プロジェクトに影響を与えるような変更はこれまでもないし、今後数年間もそのリスクは小さい。
- コメント：

C3. プロジェクト目標達成のためにアウトプット、外部条件は適切に設定されていますか。

- () 過不足なく適切に設定されている。(アウトプットをすべて達成し、かつ外部条件が満たされればプロジェクト目標はおのずと達成される。)
- () 重要な項目が欠けていて、アウトプットをすべて達成し、かつ外部条件が満たされてもプロジェクト目標が達成できるとは限らない。プロジェクト目標達成のためには、さらにアウトプットあるいは外部条件の修正が必要である。
- () プロジェクト目標達成のために不要もしくは重要度の低いアウトプットが設定されている。

説明・コメント：

C4. 貢献要因

- a. プロジェクトの効果を促進する上で特に工夫した事柄、有効であった投入や活動等があれば記述ください。
- b. プロジェクトのアウトプット以外でプロジェクト目標の達成を促進した(するであろう)外部要因があれば下記ください。

C5. 阻害要因

- a. 阻害とまではいかななくてもプロジェクト目標の達成にあまり役立っていないプロジェクトの活動・アウトプットがあればお書きください。
- b. プロジェクト目標の達成を阻害した(するであろう)要因(外部要因、内部要因)があれば下記ください。

D. 効率性(投入/活動内容がどれくらいアウトプットに結びついたか)に関する質問

D1. プロジェクトのアウトプットを達成するために、現在の投入計画及び活動計画は全体として適切ですか。

- () 過不足なく、適切である。
- () 重要な項目の欠落がある。(記述されていない活動を補完的に実施せざるをえなかった等)
- () 不要な項目あるいは重要性の低い項目が含まれている。

説明：

D2. 実施済みあるいは実施が内定している今後の投入の細部について下記に従いご意見を御願います。
(該当箇所に X 等印をつけてください)

D2a 【日本側の投入の適切さについて】

(1) 長期専門家の派遣

	適当であった	だいたい適当であった	適当でなかった
人数			
専門分野			
派遣時期			
派遣期間			
技術力			
コミュニケーション力			

理由/コメント：

(2) 短期専門家の派遣に関して

	適当であった	だいたい適当であった	適当でなかった
人数			
専門分野			
派遣時期			
派遣期間			
技術力			
コミュニケーション力			

理由/コメント：

(1) カウンターパートの日本研修

	適当であった	だいたい適当であった	適当でなかった
人数			
専門分野			
研修時期			
研修期間			
研修内容			

理由/コメント

127

(4) 練習船「こじま」での研修

	適当であった	だいたい適当であった	適当でなかった
人数			
専門分野			
研修時期			
研修期間			
研修内容			

理由/コメント

(5) 機材供与

	適当であった	だいたい適当であった	適当でなかった
機材内容 (機種)			
仕様			
数量			
供与時期			

理由/コメント：

(4a) 供与された機材の中で活用度が低い機種があれば書いてください。

機械名；

理由；

D2b. 【フィリピン側投入の適切さについて】

(1) 土地、建物、設備

	適当であった	だいたい適当であった	適当でなかった
広さ			
質			
タイミング			

コメント：

(2) カウンターパートの配置

	適当であった	だいたい適当であった	適当でなかった
人数			
質・専門分野			
タイミング			

コメント：

(3) 補助職員の配置（秘書、運転手等）

	適当であった	だいたい適当であった	適当でなかった
人数			
職種・質			
タイミング			

コメント：

(4) 運営費、機材維持管理費、等の活動予算

	適当であった	だいたい適当であった	適当でなかった
金額			
支出タイミング			

コメント：

D3. アウトプットの達成度

D3-1 アウトプット1「教育訓練局の教育訓練実施体制が強化される」の達成度

(1) PDM ではアウトプット1の指標として、年間の会議開催数があげられています。会議開催数のこれまでの実績数および今後の予測数を下記ください。

会議開催数

	02/07-03/06	03/07-04/06	04/07-05/06	05/07-06/06	06/07-07/06	合計
計画						
実績						

(2) 会議開催数を指標とするのであれば、何回開催したら目標は達成されたと判断されるでしょうか。

回答 年間 () 回。 合計 () 回

(3) 上記回数が目標値とした場合目標達成の見込みはいかがでしょうか

() 5年間で達成されると確信する。

() 達成されるかどうか微妙である。

() 達成は困難である。

コメント：

(4) 会議開催数に変えてより適切と思われる他の指標があればご提案ください。
提案：

D3-2 アウトプット 2. 「教育訓練局の教育訓練コース（海難救助、航行安全、海洋環境保全・油防除、法令励行）が整備される」の達成度

(1) PDM ではアウトプット 2 の指標として、「開発・改訂されたカリキュラムとシラバスの完成」、「開発された教科書と教材の完成」があげられています。カリキュラム・シラバス、教科書・教材が一応完成し、訓練コースが開始されるのはいつと予定されていますか

	カリキュラムとシラバスの完成予定	教科書と教材の完成予定	訓練コース開始予定	終了までのコース実施予定回数
海難救助				
航行安全				
海洋環境保全・油防除				
法令励行				

(2) 「カリキュラムとシラバスの完成」、「教科書と教材の完成」とはどの程度のものができれば「完成」といえるのかははっきりしません。これを明確にするにはどう表現したらよいかご提案ください。

提案：

(3) 現地調査の際で結構ですが、これまでに完成した「カリキュラムとシラバス」「教科書と教材」を見せてください。また今後の予定をご説明ください。

D3-3 アウトプット 3. 「官民関係機関対象のセミナー（海難救助、航行安全、海洋環境保全・油防除、法令励行）が改善される」の達成度

(1) PDM では、アウトプット 3 の指標として「セミナー用教材と広報資料の完成」と「啓蒙活動のための資料の完成」をあげています。プロジェクト終了までにこれらの資料を何種類くらい作製すれば目標を達成したといえるのか、ご意見を下記ください。

	セミナー用教材の完成数	広報資料の完成数	啓蒙資料の完成数	終了までのセミナー実施予定回数
海難救助				
航行安全				
海洋環境保全・油防除				
法令励行				

説明、コメント：

(2) 現地調査の際で結構ですが、これまでに完成した「セミナー用教材と広報資料」「啓蒙活動のための資料」を見せてください。また今後の予定をご説明ください。

D3-4 アウトプット 4. 「モニタリング・評価体制が確立される」の達成度

130

- (1) PDM では、アウトプット 4 の指標として、「モニタリング・評価実施計画・記録表」をあげています。今日までに作製された「モニタリング・評価実施計画・記録表」を見せてください。また、説明・コメント等あれば下記ください。

説明・コメント：

D3-5 全体として協力期間満了までには、十分なアウトプットが達成される見込みですか

- () 十分なアウトプットが上がると確信する。
() 投入に見合ったアウトプットが上がるか微妙である。
() 投入に見合った、適切なアウトプットをあげることは困難である。

説明・コメント：

D4. フィリピン側のオーナーシップ

CGETC 幹部や PMG にこのプロジェクトは自分たちのプロジェクトとの意識があるか。カウンターパートは、アウトプットを達成するための意欲を示し、自主的に努力したか。等

- [] 非常に高い。
[] 高い。
[] 低い。

理由/コメント：：

D5. 外部条件

- (1) PDM ではアウトプットを達成するための外部条件として「今後 5 年間の PCG 職員採用計画に大きな変更がない」をあげています。この条件は満たされそうですか

- () 既に大きな変更があり、アウトプット達成は影響を受けている。
() 影響があるような大きな変更はまだないが、今後起きるリスクは大きい。
() 今までもなく、今後も危険は小さい。

コメント：

D6. 円滑に活動を実施し、アウトプットを達成する上での阻害要因、貢献要因があれば記述ください。

a. 阻害要因

b. 貢献要因

D7. 支援体制について

- (1) フィリピン関係当局（運輸通信省等）のプロジェクトに対する認識、協力の度合いはどうでしたか。

- 協力的であった。
- だいたい協力的であった。
- あまり協力的でなかった。

理由/コメント：：

(2) 合同調整委員会は機能しましたか。

- 有効に機能した。
- 少しは役にたった。
- あまり役にたたなかった。

理由/コメント：

(3) 国内支援委員会は機能しましたか。

- 有効に機能した。
- 少しは役にたった。
- あまり役にたたなかった。

理由/コメント：

(4) JICA 本部およびフィリピン事務所の協力はどうでしたか。

	非常に有効であった。	少しは役にたった。	あまり役にたたなかった。
JICA 本部			
フィリピン事務所			

理由/コメント：

E. インパクト（プロジェクトを実施した結果、どのような正負の変化が直接的、間接的に現れたか）

（一般に中間評価の段階でインパクトを見るのは時期尚早であるケースがほとんどです。しかしながら上位目標についてはいつ達成できるかは別にして達成の方向に向かっているといえることが必要であり、また大きなマイナスのインパクトは認められないことが必要です。）

E1. 上位目標「フィリピン沿岸警備隊の業務遂行能力が向上する」の達成見込み。

(1) PDM では、上位目標の指標として、PCG の 2007 年-2011 年の「平均海難対応率」、「平均海洋環境事案対応率」、「平均海上犯罪対応率」がそれぞれ 2002 年-2006 年の平均対応率に比較して 30%改善されることをあげています

E1a. これら対応率の実績および予測をお伺いします。

	2000 実績	2001 実績	2002 実績	2003 実績	2002-2006 平均予測	2007-2011 平均予測
海難対応率						
海洋環境事案対応率						
海上犯罪対応率						

コメント・ご意見（上位目標達成の可能性・見込み等）

E1b. PDM では、プロジェクト目標を達成した上で、上位目標を達成するための外部条件として「PCG 所有船艇・航空機の状況が2001年より悪化しない」をあげています。この条件は満たされそうでしょうか

- () 既に悪化している。
- () 現時点ではまだ悪化していないが、今後悪化する懸念が高い。
- () 現時点では悪化しておらず、今後も悪化する懸念は低い。

コメント：

E1c. 上記以外にも上位目標の達成に大きな影響を与える外部条件がありますか。

コメント：

E2. フィリピンの海上保安政策（法令、規則、組織、制度、予算、人事等）に、プロジェクトはどの程度影響を与えたか（与えらると思われるか）。

影響度：[] 大きい。[] 多少あった。[] ない。[] 分からない。

理由/コメント：：

E3. PCG, CGETC の組織、制度、予算、人員への影響

影響度：[] 大きい。[] 多少あった。[] ない。[] 分からない。

理由/コメント：

E4. その他、プロジェクトが与えたあるいはあたえるであろう影響、波及効果、等あれば記述ください。（環境、ジェンダー、貧困削減、平和構築等の視点からプラス、あるいはマイナスの影響の有無をお考えください。）

F. 自立発展性（援助終了後、被援助国の機関・組織がどれだけプロジェクトの正の効果を維持することが出来るか。組織、財政、技術、人材育成など）

協力期間終了後フィリピン側だけで活動を継続してゆくことが可能と判断されますか。不安があるとすればどの面か、自立発展性をより強固にするためにはプロジェクト後半において何をすればよいか等につきご意見をお願いします。

F1. 政策・制度面

(1) フィリピンの開発政策上海上保安人材育成の重要性は低下しないか、上海上保安人材育成事業に対する政策的支援は継続するか

- () 重要性はより高まり、政策支援の向上も期待できる。
- () 重要性に変更はなく政策支援も現状で推移する。
- () 政策支援低下の懸念がある。

コメント：

(2) PCG の職務内容、要求される技能の内容等関連規則、法制度は整備されているか。

- よく整備されている。
- まあまあ整備されている。
- 不明確な点が多く問題である。

コメント：

F2. 組織財政面

(1) 協力終了後も、CGETCが引き続き活動を実施していくための組織能力はあるか。(人材配置・意思決定プロセスなど)

- 十分ある。
- なんとかなる。
- 不安である。

コメント：

(2) 実施機関のプロジェクトに対するオーナーシップは十分に確保されているか

- 十分確保されている。
- まあまあ確保されている。
- 確保されていない。

コメント：

(3) 経常経費を含む予算の確保は行われているか。その国の予算措置は十分に講じられているか

- しっかり確保されている。
- 何とかなる
- 不安である

コメント：

(4) 協力終了後も引き続き活動を継続していくためには協力開始前に比べてCGETCの予算はどの程度増える必要があるか、予算を増やす可能性はどの程度あるか。予算確保のための対策はとられそうか。

コメント：

F3. 技術的側面

(1) プロジェクトで用いられる技術訓練の手法は受容されつつあるか(技術レベル、社会的・慣習的要員など)

- 着実に受容されつつある。
- 問題がある。

コメント：

(2) 資機材の維持管理は適切に行われているか

- 資機材維持管理はプロジェクト終了までに技術移転が完了すると思われる。
- プロジェクト終了までに適切な管理ができるレベルになることは難しい。

コメント：

(3) プロジェクトで開発された訓練コース、セミナーはカウンターパートだけで継続できるようになりそうか

協力期間中に終了後カウンターパートだけで継続できるレベルにまで達することは困難である。

協力期間中に開発されたコースやセミナーを自分たちだけで継続することは可能だが、現場のニーズに従って訓練コース、セミナーの内容を改善していくレベルに達するのは無理であろう。

協力期間中に開発されたコースやセミナーを自分たちだけで継続するのみならず、現場のニーズに従って訓練コース、セミナーの内容を改善していくレベルにまで達するであろう。

コメント：

F4. 社会・文化・環境面

(1) 女性・貧困層・社会的弱者・民族/部族問題・宗教問題等への配慮不足が持続的効果を妨げる懸念はないか

ない。

若干ある。

大いにある。

コメント：

(2) 環境への配慮不足により持続的効果を妨げるおそれはないか

ない。

若干ある。

大いにある。

コメント：

F5. その他

その他自立発展を阻害する要因はないか

特に不安はない。

下記が阻害要因となる可能性がある。

阻害要因の可能性：

F6 ご意見（自立発展性をより強固にするためにはプロジェクト後半において何をすればよいか等）

G. 軌道修正の必要性

プロジェクトの後半に向けて軌道修正の必要性はあるか、について以下の視点等からご意見を御願ひします。

・特に軌道修正をしなくてもプロジェクト目標は達成されると期待できるか

- ・投入・活動・アウトプットの内容を修正する必要があるか
- ・PDM に示された前提条件・外部条件には特に問題はないか、(満たされそうか)
- ・今後留意していかなければならないことは何か

ご意見：

H. その他

今回の経験をふまえ、今後フィリピンにおいて別のプロジェクトを企画・実施する場合、あるいは他の国において海上保安分野で類似の協力を行う場合、留意すべき事項等につきご意見を御願います。

ご意見；

ご協力ありがとうございました。その他ご意見等がありましたら記入願います。

ご意見：

質問票結果

* 質問票回答者: 日本人長期専門家6名、CP7名(うちアシスタントCP2名)
 * 回答者によっては本プロジェクト参加からの日が浅いため空欄回答もあり

A	前提条件の理解	日本人専門家	よく理解されている 1	ほぼ理解されている 5	あまり理解されていない
		フィリピンCP	4	3	
B 妥当性					
B-1	上位目標・プロジェクト目標 と比国のニーズとの合致度	日本人専門家	合致している 5	ほぼ合致している 1	あまり合致していない
		フィリピンCP	7		
B-2	プロジェクト目標とPCGおよび CGETCのニーズとの合致度	日本人専門家	合致している 7	ほぼ合致している	あまり合致していない
		フィリピンCP	5	2	
B-3	プロジェクト開始以来の比政府 政策変更の有無・影響	日本人専門家	有り&好影響 2	変わらず 4	
		フィリピンCP		7	
B-4	日本政府・JICA政策変更 の有無・影響	日本人専門家	有り&好影響	変わらず 6	有り&悪影響
		フィリピンCP		5	
B-5	プロジェクトによる 上位目標達成への有効性	日本人専門家	十分有効 3	有効だが他の要因も大きい 3	直接有効ではない
		フィリピンCP	3	4	
B-6	CPとしてのCGETCの適切性	日本人専門家	大変適切 3	まあまあ適切 3	不適切
		フィリピンCP	5	2	
B-7	指導技術内容の適切性	日本人専門家	適切 5	一部不適切 1	
		フィリピンCP	7		
B-8	他プロジェクトの補完関係 もしくは重複の有無	日本人専門家	なし	(プラスの)補完関係有り 4	(マイナスの)重複有り
		フィリピンCP	3	3	
C 有効性					
C-1	プロジェクト目標達成見込み	日本人専門家	達成可能	おそらく達成可能 2	達成困難 4
		フィリピンCP	2	5	
C-2	外部条件充足・変化の見込み	日本人専門家	既に変化有り 1	追って変化の可能性有り 1	変化は無い見込み 4
		フィリピンCP	3		4
C-3	成果、外部条件内容の 適切性(プロジェクト目標達成 のために)	日本人専門家	適切	一部不適切 6	不適切
		フィリピンCP	4	2	
D. 効率性					
D-1	投入及び活動計画の 適切性	日本人専門家	適切 3	一部不適切 1	不適切
		フィリピンCP	5		
日本側投入					
D-2	日本人長期専門家 専門家数	日本人専門家	適切 4	ほぼ適切 1	不適切
		フィリピンCP	5	2	
	指導分野	日本人専門家	3	2	
		フィリピンCP	7		
	タイミング	日本人専門家	5		
		フィリピンCP	6	1	
	派遣期間	日本人専門家	4	1	
		フィリピンCP	6	1	
	技術指導力	日本人専門家	5		

137

	フィリピンCP	6	1	
コミュニケーション	日本人専門家	3	2	
	フィリピンCP	4	3	

日本人短期専門家		適切	ほぼ適切	不適切
専門家数	日本人専門家	4	1	
	フィリピンCP	5	2	
指導分野	日本人専門家	4	1	
	フィリピンCP	7		
タイミング	日本人専門家	4	1	
	フィリピンCP	5	2	
派遣期間	日本人専門家	3	2	
	フィリピンCP	4	3	
技術指導力	日本人専門家	5		
	フィリピンCP	7		
コミュニケーション	日本人専門家	2	3	
	フィリピンCP		7	

CPTトレーニング(日本)		適切	ほぼ適切	不適切
研修生数	日本人専門家	4	1	
	フィリピンCP	1	5	1
研修タイミング	日本人専門家	4	1	
	フィリピンCP	5	2	
研修期間	日本人専門家	3	2	
	フィリピンCP	1	5	
研修内容	日本人専門家	3	2	
	フィリピンCP	1	5	
研修方法	日本人専門家	4	1	
	フィリピンCP	2	4	

コジマによるトレーニング		適切	ほぼ適切	不適切
研修生数	日本人専門家	3	2	
	フィリピンCP	3	3	1
研修タイミング	日本人専門家	5		
	フィリピンCP	4	2	
研修期間	日本人専門家	4	1	
	フィリピンCP	1	5	
研修内容	日本人専門家	5		
	フィリピンCP	4	2	
研修方法	日本人専門家	5		
	フィリピンCP	4	2	

供与資機材		適切	ほぼ適切	不適切
資機材内容	日本人専門家	5		
	フィリピンCP	4	2	
資機材仕様	日本人専門家	5		
	フィリピンCP	4	2	
数量	日本人専門家	5		
	フィリピンCP	1	4	1
供与タイミング	日本人専門家	2	3	
	フィリピンCP	3	3	

D2b. フィリピン側投入

土地、建物、施設		適切	ほぼ適切	不適切
広さ、数量	日本人専門家	2	2	2
	フィリピンCP	3	2	2
質	日本人専門家		4	2
	フィリピンCP	2	3	2
タイミング	日本人専門家	3	1	1
	フィリピンCP	4	1	2

CP		適切	ほぼ適切	不適切
CP数	日本人専門家	3	3	
	フィリピンCP	2	2	3
分野	日本人専門家	1	4	1
	フィリピンCP	2	3	2
CP能力、レベル	日本人専門家	1	3	2
	フィリピンCP	3	3	1
タイミング	日本人専門家	2	3	
	フィリピンCP	2	2	3

アシスタントスタッフ		適切	ほぼ適切	不適切
人員数	日本人専門家	2	3	
	フィリピンCP	4	3	
スタッフ能力、レベル	日本人専門家	2	3	
	フィリピンCP	4	3	
タイミング	日本人専門家	2	3	
	フィリピンCP	4	3	
運営費、維持管理費負担		適切	ほぼ適切	不適切
金額	日本人専門家	1	3	
	フィリピンCP			
タイミング	日本人専門家	1	2	1
	フィリピンCP			

D3 成果達成度

D3-5	各成果の達成見込み(プロジェクト終了までに)	日本人専門家	達成される 1	おそらく達成される	達成困難
		フィリピンCP	4	5	
D4	比国のオーナーシップ意識	日本人専門家	非常に高い	高い	低い
		フィリピンCP	5	3	1
D7	他機関のサポート	日本人専門家	強力	ある程度あり	(ほぼ)無し
		フィリピンCP	4	3	1
	JCCの機能	日本人専門家	よく機能している	ある程度機能している	機能していない
		フィリピンCP	1	2	
	JICAからのサポート	日本人専門家	強	ある程度	弱
		フィリピンCP	3	3	1
		日本人専門家	強	ある程度	弱
		フィリピンCP	6	1	2

E インパクト

E1b.	外部条件充足・変化の見込み	日本人専門家	すでに変化有り(-)	将来可能性 大	将来可能性 小
		フィリピンCP	1	2	1 4
E2	PCG政策への影響	日本人専門家	大きな影響	ある程度の影響	分からない
		フィリピンCP	1	1	2
E3	PCG、CGETCの組織体制等への影響	日本人専門家	大きな影響	ある程度の影響	分からない
		フィリピンCP	1	1	1

F. 自立発展性

政策面		より高くなる	現状どおりの重要性	低くなる
政策支援の継続性	日本人専門家	4	1	
	フィリピンCP	2	5	
組織面		十分な能力有り	ある程度の能力有り	不十分
CGETC組織力	日本人専門家	1	2	
	フィリピンCP	2	3	1
CGETCオーナーシップ意識		十分あり	ある程度有り	不十分
	日本人専門家		3	
	フィリピンCP	2	3	1
財政面		問題なし	ある程度の困難予想	不安
予算確保の見通し	日本人専門家		2	3
	フィリピンCP	1	4	1
技術面		高い	ほぼ十分な受容性有り	問題を予見
指導技術の受容性	日本人専門家	5		
	フィリピンCP	7		
機材維持管理の見込み		確実性有り	ある程度の確実性	問題を予見
	日本人専門家	4		

	フィリピンCP	2	2	2
		難	ある程度は可能	十分に可能
CPのみによるトレーニング	日本人専門家		2	2
実施の見込み	フィリピンCP		2	5
社会・文化・環境面		あり	一部有り	なし
ジェンダー、社会的弱者	日本人専門家	1		3
等への負の影響の可能性	フィリピンCP		1	6
環境への影響可能性		あり	一部有り	なし
	日本人専門家	2	1	3
	フィリピンCP		1	6